

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871300535		
法人名	社会福祉法人五輪福祉会		
事業所名	グループホームのさか		
所在地	兵庫県丹波市山南町野坂209		
自己評価作成日	平成24年12月10日	評価結果市町受理日	2013年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.hyogo-kai.go.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2013年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は山村に立地しており、周辺は自然にあふれ屋外はもちろんのこと、屋内で生活していても季節を感じる事ができます。特に裏山は春には桜や躑躅、ふきのとう、夏には深緑、せみの声、秋には色とりどりの紅葉に柿、栗が実り、冬には雪景色を窓から眺めたり、直接雪を手にとって自然を感じることが出来ます。この自然環境は適度にご利用者の五感を刺激し豊かな感情を引き出し生きがいにつながっていると思われます。天気の良い日にはできる限りゆったりと散歩や日光浴を行っています。近くに店がないため車に乗り、買い物や外食、季節の花の散策に出かけます。時には併設の養護老人ホームのご入所者と外出したり、合同で行事を楽しむことで普段とはまた違った活気があります。笑顔の多い交流が図れます。毎日職員が4人勤務しており、ゆとりを持って一人ひとりにかかわれるよう対応している。処遇理念を踏まえ日々一人ひとりの心に寄り添いともに生活し、ご利用者に残されている能力や隠された意欲を見落とさないように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた立地条件を活かし、健康で穏やかな生活を送れるよう支援していくことを理念に定め、「利用者の持っている力を活かす」というグループホーム本来の姿を目指している。四季を感じられる広い中庭にはウッドデッキが敷かれ、テーブルや椅子も置かれ、併設事業所への自由な行き来が可能で、利用者が開放感を持てるよう工夫している。職員は「利用者は人生の大先輩」と捉え、様々な気付きを支援に活かし、利用者や家族には親切、丁寧に対応するを心掛けている。認知症への理解に関しても「奥深く、分かったつもりでも、まだまだ足りない」と自戒し、さらに勉強が必要だと考えている。事業所内会議では、日々の業務の中で気付いた事柄について遠慮なく意見交換し、サービスの改善に繋げている。市が認知症の研修に力を入れ、主催する研修も多いため、積極的に参加、支援の向上に活かしている。地域からは毎週レクリエーションやお話相手にボランティアの訪問があり、利用者の楽しみとなっている。自炊も回数多く取り入れ、近隣のスーパーへの買い物や美容院の利用など地域との繋がりにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人ひとりを理解することによりその人らしい生活を送っていただきたいとケア会議や部署会議などの中で常に話し合い、ケアプランに生かしている。	利用者の人間性や自主性を尊重し穏やかに地域の中で生活できることを理念とし、基本方針の中に具体的な支援方法を定めている。月4回の施設内会議で毎回理念を唱和し、職員間の理解を深め日々の支援を振り返る機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティア様の来訪があり楽しい時間を過ごしたり、地域へは催しの参加や、併設の養護利用者と共に行事を行い、交流を図っている。又、四季に応じての外出や自炊や日用品の買い物を職員と出掛けていただくよう心がけている。	毎週ボランティア訪問を得て、利用者が顔見知りの人から知人の近況を聞く機会にもなっている。昼食は週の半分は自炊しているため、利用者と共に車で数分のところに食材購入に出かけている。施設長は市内の民生委員の選出委員なども務め、地域内の情報を得やすい立場にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への情報発信の機会は非常に少ないが、認知症に関する相談などがありアドバイスしている。年4回のたより発行の際にはご家族に「認知症とは？」の文書を一緒に送付している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を実施しており、近況、行事報告を行ない、出席者に自由に意見を出していただき今後のサービスに活かしたり又、ご利用者様と一緒に茶話会の機会をもつことで現状を理解していただいている。	市の担当課、社協、自治会長、家族、介護相談員などの参加を得ている。現状報告等を行い、事業所が抱える求人難などの問題も話し合っている。介護相談員からは他の事業所の優れている点などの情報も得て、事業所のサービス改善に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を始め、日頃より担当課とは連絡を密にしている。市からは新たな情報が入手された場合には早い対応がなされている。今年度は丹波市の研修に多く参加させていただいた。	市からは助言や研修機会の提供を受けている。昨年は著名な講師を招いての認知症研修もあり、有益な学びを得る事ができた。地域包括支援センターからも熱意のある関わりを得て、電話で相談するなど連携が取れている。	現在、地域包括支援センターは運営推進会議のメンバーには入っていない。事業所からの希望でもあり、地域密着型の事業所の特性を活かすためにも、今後は定期的な参加を呼びかけられては如何か？
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と合同で身体拘束廃止委員会を設置しており委員会や勉強会に参加している。GHにおいても内部研修で取り上げている。施設全体で身体拘束につながらないよう取り組んでいる。	併設事業所と合同の委員会や研修を一回ずつ実施し職員に周知している。夜間は施錠しているが、昼間は職員一人が必ずホールに待機し、開錠するよう努力している。居間に面して広い中庭があり、利用者は自由に出入りしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設と合同で虐待防止委員会を設置しており委員会や勉強会に参加している。GHにおいても内部研修に取り組み、虐待防止に努めている。	市が虐待に関する研修を度々実施しているため職員の意識も高まっている。入浴の際には不自然な傷が無いか注意し、報告や日誌へ記入する方法を取っている。また不適切な言動については職員間でお互いに注意し合える関係を築いている。	

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を行い、職員間で制度を周知できるよう取り組んでいる。	施設長が事業所内で研修を実施したり、家族にも情報提供している。制度の利用が望ましい場合には地域包括支援センターに繋ぐことにしているが、現在のところ実際に制度の利用者はいない。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書などでわかりやすく明示し、契約時等に十分な時間を使って説明することで理解、同意を得ている。	グループホームは利用者が持っている力を活かして共に生活する場であると、管理者は考えているので、看取りは実施していない。利用契約時には利用者や家族にその方針を伝え、常に車いすが必要な状態になれば退去となることも説明、了解を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、家族など誰もが自由に意見を言えるようにしている。意見があった場合には職員間で共有し、運営推進会議にも報告して意見を伺い今後の運営に反映させたい。	夏祭りなどの行事や茶話会には家族の参加を得ているが、意見交換の場にはなりにくいため、年4回の「お便り」の中にアンケートを入れている。家族からは職員の名前が分かるようにネームプレートをつけてほしいとの意見が出たので、早速取り入れた。	既に「お便り」の中に運営推進会議の案内を入れているが、加えて前回の報告も入れる事を検討されている。さらに運営に関心を持ってもらえるよう、家族会も呼び掛けられてはどうだろうか？
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は出来る限り職員と会話する機会を作り、意見や提案を聴くように努めている。	月一回の部署会議で業務改善に繋がる意見を遠慮なく出し合っている。提案を取り入れ、購入が必要な物品を記入しておくホワイトボードを購入したり、利用者と共に食事をとれるよう、休憩時間を変更したりもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ゆとりある職員配置が利用者に安心と安全な生活が支援が出来る、その結果がやりがいのある職場となれば考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の施設内処遇研修や各職員に応じた外部研修を受ける機会がある。外部研修後には研修報告書を提出し他職員に会議等で研修報告を行い共通の知識を持つ。また法人内の各委員会の勉強会やリハビリ研修に参加することでスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回市内のGHネットワーク会議があり情報交換、施設見学の機会がある。会議以外においても直接他施設と業務や書類等について情報交換している。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学をしていただき、施設を理解していただく。本人の困っていることや悩みなどを確認する。必要に応じて入所前のケアマネなどにご本人の様子なども確認してご本人の思いを汲取り、安心していただけるように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時等にご家族の意見や思いを聴き、ご本人の対応につなげている。相談事や疑問点があればいつでも声をかけていただくよう話かけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時にご本人やご家族が一番困っていたことを確認する。まずそのことへのサービスが提案できるかどうか。必要に応じて入所前の担当ケアマネにも様子を伺いよりよいサービスの提案をする。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、作業の際には利用者を頼りにし職員の方が手助けをしてもらっているという意識を持つように心がけ、作業の後には丁寧に礼を言うことにより利用者の笑顔も見られ意欲につながっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にはできるだけ面会を促したり外出や外泊の機会をとっていただいている。また受診時にはできるだけご家族に付き添っていただき利用者を支えていただいている。	
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へは出掛けることは出来ていないが利用者の方によっては知人や住まれていた地域の方の面会があり居室で過ごされている。また、在宅時に利用されていたお店や美容室を利用していただき、馴染みの方と交流をつづけていただいている。	以前の住いの隣近所の人や民生委員の方が尋ねて来られたり、従来から購読していた新聞を届けてもらっている。また行きつけの美容室や自宅近くの商店に行けるように図り、馴染みの関係の継続を支援している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や認知症のレベルに配慮しながら良い関係が作れるように必要に応じて声かけ等をしている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は継続的な関わりは行っていないがご家族より相談があれば応じるようにしている。介護保険施設や事業所を来訪する機会や連絡する時に近況を職員に尋ねている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の面会時やご本人にその都度、意向を伺い、把握に努めている。ご本人から意向を伺えない場合はご本人の立場になって検討している。	本人、家族、支援者から状況を聞き取ったり、本人の会話やしぐさを注意深く観察し、思いを理解するよう心掛けている。その結果、拝むしぐさから、寺社へのお参りを好む事を知ったり、野菜を選ぶ事が得意な点から、野菜作りをしていた事が分かった事もあった。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前からご本人やご家族からの聞き取りや情報シート等により把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存能力に応じて一人ひとりを総合的に把握するよう努めている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成には入居時よりご本人、ご家族の意見、希望を聞きながら作成している。またコミチャート様式やセンター方式を活用しその人らしさを把握している。また職員一人ひとりがモニタリングを行い会議までにCMに提出している。職員全員が個々のケアプランを把握し、統一したケア	往診医からの意見も得て、計画担当者と職員で作成している。入居直後は一週間、一か月、三か月で見直している。職員一人一人に記述式のモニタリング用紙を渡し、集約しに見直しに繋げている。職員も計画を理解した上で、ケース記録に反映させている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の全員の体調や生活の変化の有無を記録に取り、朝と夕方の申し送り時に報告している。日頃からご利用者のできることを把握し、また思いを汲み取れるよう接しながらケア会議には意見しながら評価を行いケアプランの見直しにつなげている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護サービスを計画するうえで、利用者やご家族に現状のサービスや今後新たなサービスが出来ないか、一緒に検討している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設で生活しておられても、地域の方々と同じように美容室を利用したり、家族と一緒に病院受診をしたり、買い物など出来るよう支援している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人やご家族の希望を確認している。緊急時以外にご家族に利用者の状態、病状を伝え、受診伺いをする。また出来る限りご家族の付き添いによる受診を促している。	利用者や家族の希望を尊重しているが、大半の利用者は、法人内の養護老人ホームの嘱託医をかかりつけ医としている。同医務室で診察が行われる眼科、精神科にも受診している。昔からの医師やそれ以外の受診は家族の協力を得ており、受診についての連携や支援を行っている。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と日常的に相談したり必要に応じて助言をしていただいている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医師や看護師、地域連携室と情報交換を密にし利用者の状態把握に努め、必要な場合は様子確認のため来院している。	入院の際は状態確認のために病院に出向き、地域連携室から経過報告を受けている。治療が落ち着き、在宅での生活が可能となると、住宅改修を含め今後の介護方法を家族と相談し、できるだけ早期退院できるよう受け入れ態勢を整えている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や体調変化時、ご家族にはその都度、話し合いを持っている。必要に応じて医師に相談しているがしかし、終末期の対応は設備の関係上、当事業所では困難である。	契約時に事業所ができる最大のケアを説明し、常時の車いす介助や個浴が不可能となるなど、事業所として対応しかねる状態に関して説明をし納得を得ている。重度化した場合は家族や医師とともに検討を重ね、利用者にとって最適な介護が受けられるよう他施設への入所支援を行っている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命訓練や感染症に対する研修など併設の施設と合同で定期的実施している。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は併設施設と合同で年3回実施している。その際には消防署や地元の消防団の立会いのもとに実施している。	消防署立会いの下、法人合同の通報・消火・避難訓練を、夜間想定も含め年3回実施している。利用者も参加し、広い玄関前広場に誘導できた。その他専門業者が来訪し、年2回ずつ防災器具点検や消火器具の取扱説明を受けている。備蓄は法人として完備している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常日頃から利用者の言葉がけや対応には注意を払っている。ケア会議や施設内処遇研修等で話し合い、職員全員で取り組んでいる。	利用者の個性を理解し、その時々の状態を見極め職員間で検討し、寄り添いの支援に努めている。利用者が不快に感じないような言葉かけの内容や語調に留意している。個人情報の責任ある取り扱いは、新人教育時に伝えている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が認知症のため自己決定が不自由であるが、日常の支援の中で本人の希望に添えるよう支援している。また職員が判断しにくい場合は家族の協力を得るようにしている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事にしている。また日常的な日課においてはそのときのご本人の意思や体調に応じて希望に沿うように支援している。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ衣服はご本人の意思にまかせて選んでもらっている。理美容は御本人やご家族の希望に合わせて予約や同行している。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、配膳や片付け等、個々の能力に応じて一緒に行なっている。以前は食器洗い当番表を掲示していたが他者とのトラブルがあり中止とした。	食事は法人厨房から搬入されるが、利用者の好みを反映させるため、月10回以上の「自炊の日」を決め、利用者とともに食材の買い物から調理まで行っている。お菓子作りも月3・4回行い一緒に楽しんでいる。コンクリート製のプランターで収穫した野菜はその日のメニューに取り入れている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは併設施設の栄養士の協力を得ている。利用者個々に食事量は調整しており、日々の食事量、水分チェックを記録している。利用者の好みや自宅から持ち込まれた茶碗、箸、コップを使用している。食事介助の必要な方もできるだけ自分で食べられるよう支援している。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝時は夜勤者、昼食後は日勤者により歯磨きの声かけ、介助を行なっている。利用者によっては歯磨きの理解ができない方にはお茶等でうがいをしていただき、口の中に残食が残らないように口腔ケアに努めている。		

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援を要する利用者に関しては排泄チェック表に記入することで排泄間隔を把握しトイレの声かけ、誘導することで失禁を減らし、自立排尿につなげられるよう支援している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者の表情や立ち上がり探すぐさなどを見逃さず、「お部屋に帰りませんか」などさりげなく声掛け・誘導の支援を行っている。紙パンツで退院し、その後布パンツが可能となり、自信を取り戻した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表に記入することで排便の間隔を把握している。特に便秘気味の方には食事、水分や散歩等で予防に取り組んでいる。便秘が改善できない場合は受診につなげている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	業務の都合により曜日は決めているが一人ひとり個浴で対応し、ゆず湯なども取り入れ楽しんでいただけるよう工夫している。	入浴は基本的には週3回午後としているが、夕食までの間ゆっくりと時間を取り、利用者の希望や状態に合わせて柔軟に対応している。入浴を渋る利用者には声掛けの人を変え、無理強いはせず後日改めて誘っている。つかる時間の長短、湯温、順番など利用者の要望に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に留意し、一人ひとりが安心して居室やリビングで生活できるよう支援し、日々の活動は決して強制せず、思い思いの生活を楽しんでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の薬の内容を理解しており正しく服薬できるように支援している。薬を変更した時は申し送り表に薬の情報提供書を添付しご本人の体調の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の今までの生活歴や趣味を把握し、日々の日課や作業に取り入れ、参加していただいている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候の良い日には散歩や日光浴をすることで体調を感じたり気分転換を図っていただいている。また日用品や食材の買出しに出来る限り一緒に外出している。季節の花の散策等は出掛けられているが個別に行きたい所はご家族の協力により出掛けられている。	季節の木々が植えられた事業所周辺は広々としており、散歩を十分楽しむことができる。桜の下での食事会、買い物外出、ウッドデッキでの日光浴なども、利用者の状態や希望に合わせている。季節の花見など行事型ドライブは何班かに分けて出かけているが、個別による遠出の外出は家族の協力を得ている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には、出来るだけ個人で支払いをしてもらうように支援しているが金銭管理等は難しいようです。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者によってはご家族等に電話していただくようにテレホンカードを事務所に預かり、都度かけていただいている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	場所によって蛍光灯の種類を変えている。音楽やテレビの音量も利用者に尋ねながら対応している。居間や廊下や居室には絵や貼り絵などで季節を感じられるように季節ごとに飾り物を工夫している。	テーブルセット、ソファ、椅子、ベンチなどが適宜置かれ、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮されている。居間や居室には季節的な飾りがなされ、柔らかい電球色の照明で落ち着いた雰囲気となっている。利用者の状態の変化で加湿器が使えなくなって撤去し、乾燥防止として洗面台に水をためたりタオルを干すなどの工夫をしている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆、思い思いに本を読んだり、会話を楽しんだりと過ごされている。職員も雰囲気を見ながら対応している。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居前に使用していたタンスや布団など使い慣れた物を持ち込んでいただいている。またご家族の写真や今までに興味で作られた飾りや作品を居室内に置いたり飾ったりしている。	各居室には洗面台とトイレが設置され、引き出しや収納スペースのあるベッド、ロッカー箆、下駄箱が備え付けられている。その他衣装ケース、鏡台など馴染みの物を置き、趣味の作品や家族の写真等を飾るなど利用者それぞれの生活が感じられる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者によってはトイレに位置を示す貼り紙をしたり、また夜間トイレ内の照明をつけてトイレを判りやすくしている。居室に1日の日課を掲示することで時計を確認しながら行動をされている利用者もおられる。		